

## 「蓮舫の二重国籍について どう思いますか？」

平成 28 年 9 月 13 日

### ●よしさんからの質問

ズバリお聞きします。蓮舫の二重国籍についてどう思いますか？その様な人間が国会議員というのは危険では無いのでしょうか？自民党の見解と西田さんの見解をお教えいただけたらと思います。よろしくお願い致します。

### ●西田昌司の答え

自民党の見解については私は述べる立場にはありませんし、現時点では問題の全貌がはっきりとはしていませんが、以下に私の見解を述べます。

公権力を行使する公務員については「日本国民に限る」のが原則ですし、公職である政治家については法律で国籍条項が明確に規定されています。公権力を行使する立場の人間が他国や外国人に便益を与えて国益に反することをしてもらっては困るからなのですが、蓮舫さんは民主党政権時代に大臣を務めた方ですし、法的にも大いに問題があるでしょう。しかし、蓮舫さんの説明が二転三転する様を見ていると、法律の問題云々以前に政治家として全く信用できない人物だと今回改めて感じた次第です。

蓮舫さんが大臣だった頃、私は国会で蓮舫さんの政治資金等の問題を追及しましたが、その中の一つに、国会内でのファッション雑誌撮影問題がありました。ファッション雑誌『VOGUE NIPPON』が、国会議事堂で高級ブランド服を着てポーズをとっている蓮舫さんの写真を掲載しましたが、国会議事堂内では私的な宣伝や営利目的に当たる行為は許可されていないので問題となったのです。

私は国会でこの問題を取り上げ、まず参議院事務総長に写真撮影を許可した経緯について尋ねたところ、以下のような答弁が返ってきました。

蓮舫さんの事務所から「撮影目的欄には議員活動の記録のためと記載」された申請書が提出され、「雑誌のインタビューを受けるに当たり、記事に掲載する写真を撮影するため、院内における撮影許可を求めて」きたので、「私的な宣伝若しくは単に営利を目的とするものについては撮影許可の基準に照らして許可の対象外」と事務所に伝えて、事務所の了解を得ました。しかしその後、『VOGUE NIPPON』のホームページのブログを確認すると「ファッション誌としての宣伝色の強いもの」であり、「雑誌に掲載される写真も許可基準から（中略）外れるような使われ方になる」と思われたので、事務所に対して「再度、私的な宣伝目的等は許可対象外である旨の注意喚起」をしました。

しかし、注意も空しく雑誌に写真が掲載されてしまったのです。

一方の蓮舫さんは、「おおむね今事務総長が御答弁したとおり」と前置きしながらも、事務総長とは全く違う以下のような答弁をしました。

「撮影目的欄に何と書けばいいのかというお尋ねを申し上げた」ところ、「議員活動の記録のためと書くように担当者から示唆」があったので、そのとおりに書きました。

事務総長は議員活動の記録のためと言われたので許可をしたと述べ、一方の蓮舫さんは議員活動の記録のためと書くよう言われたと、双方の答弁が全く食い違っているのです。私は両者に再度答弁を要求しましたが同じ答弁しか返ってきませんでした。すなわち、どちらかが虚偽答弁をしているのです。

事務総長側が事務所側に議員活動の記録のためと書けなどといった出鱈目なことを言っても何のメリットもありませんし、蓮舫さんが虚偽答弁をしていると考えるのが常識的な判断でしょう。これまでも蓮舫さんは国会において前言を翻して全く逆の発言をすることが多々ありましたし、今回の二重

国籍の問題でも同じことになっています。二重国籍を持つ人物が政治家をやっていたのももちろん非常に大きな問題ですが、平気で嘘をつく蓮舫さんのような人物は政治家として全く信用なりませんし、そこが問題の核心なのです。

ところで、私の京都の知り合いで台湾から日本に帰化された方がおられます。この方も二重国籍であり、私は台湾のパスポートと日本のパスポートを見せてもらいました。2つのパスポートにはそれぞれ台湾名と日本名が記載されており、それらのパスポートを使って日本と台湾を行き来していると話されていました。私は「それはちょっとまずいんじゃないの？」と申し上げましたが、このようなことは蓮舫さんに限った話ではなく世間に多くあるようです。

名前を2つ持っているると犯罪に巻き込まれるといった危険性が非常に高まりますし、今の国籍の管理のやり方自体にも非常に問題があると思います。二重国籍を上手く排除できるような仕組みが是非とも必要です。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>